

平成28年度進行管理・評価シート
津和野町歴史的風致維持向上計画（平成25年4月11日認定）
「最終変更平成28年3月14日」

■進捗評価シート(様式1)

①組織体制(様式1-1)	1
②重点区域における良好な景観を形成する施策(様式1-2)	2
③歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項(様式1-3)		
1 藩校養老館保存修理事業	3
2 旧城下町等サイン整備事業	4
④文化財の保存又は活用に関する事項(様式1-4)		
1 文化財の調査、埋蔵文化財の取扱など	5
2 文化財の復旧(保存修理等)、文化財の防災、文化財と調和した 周辺環境・景観の保全・形成	6
3 文化財の保存(活用)を行うための施設の整備	7
⑤効果・影響等に関する報道(様式1-5)	8

■総括評価シート【方針の達成状況等】(様式2)

1 歴史・伝統を反映した活動の継承と活性化	9
2 歴史的建造物等の保存・活用	10
3 歴史文化の息づく街並み・集落の環境の保全・整備	11
4 歴史文化を活かした観光振興等による地域の活性化	12
5 住民等の理解と参加・協同による取組展開	14

■総括評価シート【代表的な事業の質の評価】(様式3)

①歴史的風致維持向上施設の整備・管理(様式3-1)	15
②その他(事業効果等)(様式3-2)	17

■法定協議会等におけるコメントシート(様式4)	19
-------------------------	-------	----

評価軸①-1
組織体制

項目	評価対象年度	平成28年度 現在の状況
○事業推進のための体制整備 ○歴史的風致維持向上協議会の開催		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

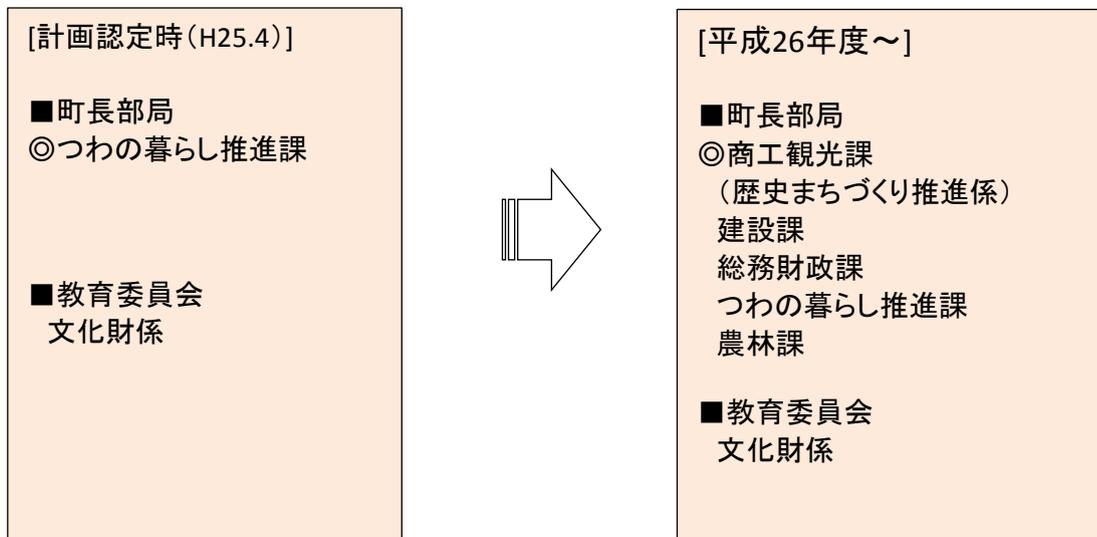
計画に記載している内容 庁内において、歴史まちづくり推進チームを設置して各課連携して事業を推進する。歴史的風致維持向上協議会を立ち上げ、計画変更や事業評価等に対応する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で
 ○歴史まちづくり推進チーム・・・教育委員会、建設課と随時協議を行い「都市再生整備事業計画」「集約促進景観・歴史的風致形成推進計画」の変更等を行い、事業を推進した。
 ○協議会・・・平成27年度の事業評価及び意見の聴取を実施するとともに、平成28年度実施の都市再生整備事業によるJR津和野駅周辺整備事業等についての意見を聴取した。(計3回実施)

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	引き続き、関係課、関係者間での連携を保ちながら、実行性のある推進体制を維持する必要がある。

状況を示す写真や資料等

■歴史まちづくりへの全庁的な取り組み(事業担当の推移)



■歴史的風致維持向上協議会の開催(平成28年度事業分)

- <第1回協議会(8/4)>
 - ・JR津和野駅周辺整備事業について
- <第2回協議会(10/20)>
 - ・JR津和野駅周辺整備事業について
 - ・駅舎の整備について
- <第3回協議会(5/19)>
 - ・事業評価について
 - ・平成29年度事業について
 - ①JR津和野駅周辺整備
 - ②サイン整備事業



第1回協議会の様子

評価軸③-1

歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

項目	評価対象年度	平成28年度 現在の状況
藩校養老館保存修理事業		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

事業期間 平成27年度～30年度
 支援事業名 街なみ環境整備事業、集約促進景観・歴史的風致形成推進事業

計画に記載している内容 藩校養老館について、柱等が全体的にシロアリ被害を受けるとともに、屋根瓦の割れなどにより雨漏りが発生しているため危険であり、保存修理を実施する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

平成27年度:実施設計業務(街なみ環境整備事業)
 平成28年度:実施設計が完了し、建築基準法第3条による摘要の除外を受けるため、島根県の建築審査会に諮った。12月に入札を実施し、平成30年6月までを工期として工事に着手した。事業の進捗にあたっては、文化財保護審議会において整備方針を決定するとともに、適時専門家の意見を受けながら工事を進める。また、整備完了後については、観光客や訪れ、また町民が利用できるよう、工事と平行して検討を進めていく。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	解体工事およびその後の建物痕跡、発掘調査等により、当初よりも工期が9ヶ月延長し、H30年度末までかかることが見込まれる。財政的な面はもちろん、観光客への影響等が懸念される。

状況を示す写真や資料等

■平成28年度保存修理事業箇所

[事業年度]
 平成27～28年度・・・実施設計業務
 平成28～30年度・・・保存修理工事
 平成30年度・・・保存修理・活用(整備)工事



〔解体前写真〕



〔解体調査中写真:2/24撮影〕



〔解体完了写真:3/22撮影〕

評価軸③-4
歴史的風致維持向上施設の整備及び管理に関する事項

	評価対象年度	平成28年度
項目	現在の状況	
旧城下町等サイン整備事業	<input checked="" type="checkbox"/> 実施済 <input type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

事業期間 【第Ⅰ期】平成26年度～27年度、【第Ⅱ期】平成30年度～31年度

支援事業名 社会資本整備総合交付金(街なみ環境整備事業)

計画に記載している内容
 ○重点区域内(旧城下町、歴史的建造物が集積する区域含む)における案内板、文化財等の説明版、誘導標識、表示板等の整備を行う。
 ○多言語音声設備等についても検討する。

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

第Ⅱ期の事業を前倒し、都市再生整備事業においてサイン整備(H28～30計画)を活用して以下の事業を実施した。
 誘導サイン(平成28年度) 実績8基/全体計画57基
 (計画期間累計) 8基

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
 計画どおり進捗している
 計画どおり進捗していない
 これまでに設置されている老朽化したサインや景観上問題のあるサイン(公私問わず)の撤去方法については今後検討を要す。

状況を示す写真や資料等



1. 森JR鉄橋下(誘導: 3,000mm × 1,600mm: 照明付)
2. 森三叉路①(誘導: 1,680mm × 1,200mm: 照明付)
3. 森三叉路②(誘導: 1,680mm × 1,200mm: 照明付)
4. 稲成下(解説: 1,200mm × 434mm)
5. 鉄砲町入口(誘導: 3,400mm × 2,500mm)
6. 国道9号入口(誘導: 1,200mm × 7,200mm × 3面: 照明付)
7. 津和野高校前(誘導: 1,280mm × 1,500mm: 照明付)
8. リフト下(誘導: 600mm × 900mm: 照明付)



[2. 森三叉路]



[4. 稲成下サイン]



[5. 鉄砲町入口]

評価軸④-1

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成28年度 現在の状況
文化財の保存又は活用に関する事項		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 ①文化財の調査、埋蔵文化財の取扱など

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

文化財の調査については、歴史資料をもとに歴史調査、民俗調査や自然環境等についての計12回の調査を行った。また、歴史に関する講演会を7回開催して、調査成果などを報告、重点地区内の施設整備やまち歩きのためおガイド育成などにつなげていくこととしている。埋蔵文化財調査については、重点区域の全域が周知の遺跡となっていることから、道路整備や住宅の立替時などにおいては文化財保護法に基づき遺跡の記録や保存等に関する調査や行政指導を行っている。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

文化財の指定については、藩主墓所や天然記念物、民俗について進めている。埋蔵文化財については、これまで同様に周知の埋蔵文化財包蔵地における開発の把握が必要であり、文化財保護法に基づく調査や行政指導を実施していく。

状況を示す写真や資料等



専門家による民俗調査
(4/9~10、7/27~28、8/10~11実施)



専門家による自然環境等調査
(6/13~15、11/21~23、3/26~28実施)



専門家による歴史に関する講演(7回)
(6/18、8/11、10/22、12/10、2/4、2/25、3/18実施)



県道整備計画による埋蔵文化財発掘調査状況
(津和野城下町外堀跡 12/21撮影)

評価軸④-2

文化財の保存又は活用に関する事項

	評価対象年度	平成28年度
項目	現在の状況	
文化財の保存又は活用に関する事項	<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手	

計画に記載している内容

②文化財の復旧(保存修理等)、文化財の防災、文化財と調和した周辺環境・景観の保全・形成

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

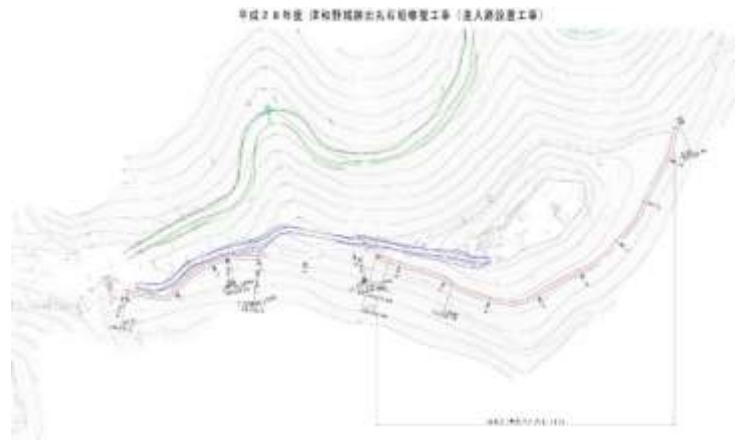
国史跡の津和野城跡において、平成29年度から実施予定の石垣整備のための工事用道路および仮設歩道の設置を実施している。また、伝統的建造物群保存地区においては3件の修理事業を実施し、まち並みの環境が整備された。伝統的建造物群保存地区内においては、防災対策調査を実施した。平成29年度中に計画を策定、平成30年度から対策事業に着手する予定である。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input checked="" type="checkbox"/> 計画どおり進捗している <input type="checkbox"/> 計画どおり進捗していない	県指定文化財である永明寺は老朽化が進行しており、早期に整備が必要である。現在調査を行っており、すでに報告書が作成されている旧藩主亀井家の墓所とともに国指定史跡・名勝として指定する方向で調整を行っている。また、伝統的建造物群保存地区における防災計画については、平成28年から2か年の計画でまとめることとしている。

状況を示す写真や資料等



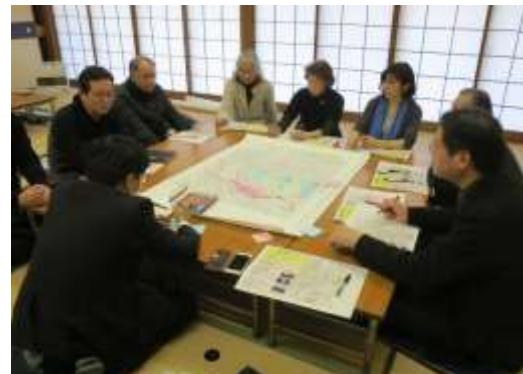
津和野城跡仮設歩道設置状況:2/7撮影



津和野城跡仮設道整備(約300m)



津和野伝統的建造物群保存地区保存修理(左:本町通り3/30撮影、右:殿町通り3/30撮影)



津和野伝統的建造物群保存地区防災対策調査(左:水路調査4/29実施、右:住民ワークショップ3/2実施)

評価軸④-3

文化財の保存又は活用に関する事項

項目	評価対象年度	平成28年度
		現在の状況
文化財の保存又は活用に関する事項		<input type="checkbox"/> 実施済 <input checked="" type="checkbox"/> 実施中 <input type="checkbox"/> 未着手

計画に記載している内容 ③文化財の保存(活用)を行うための施設の整備

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

伝統的建造物群保存地区内の空き家(旧施設の美術館)を津和野町が譲り受け、津和野町日本遺産センターは指定、未指定にかかわらずストーリーの構成文化財を展示パネルや映像、資料などで紹介する。保育園から小学、中学、高校、大学までの学習支援、さらには外国人向けのガイド、文化体験などができる機能をさらに充実させ、文化財を身近に感じてもらうための取り組みを推進する。平成28年度の視察件数は53件、学校等の訪問が15件、公民館等の研修が8件にのぼる。

進捗状況 ※計画年次との対応

実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)

計画どおり進捗している
計画どおり進捗していない

日本遺産センターや津和野町郷土館を拠点として文化財をPRするとともに、関連施設とのネットワーク化が重要となる。また、個々の文化財をより魅力的に紹介するための開設サインやガイドの育成、地域住民の参加などが緊急の課題となっている。

状況を示す写真や資料等



津和野町日本遺産センター(外観:10/28撮影)



津和野町日本遺産センター2階展示整備(2/21実施)



外国人向け体験メニューの充実(7/30撮影)



文化財周知メニューの充実(12/10撮影)



日本遺産を紹介するガイド研修(2/21実施)



文化財を周知するエリアマップ等の設置(14箇所:3/31撮影)

評価軸⑤-1

効果・影響等に関する報道

		評価対象年度	平成28年度
報道等タイトル	年月日	掲載紙等	
(1)外国人観光客津和野に続々	平成28年5月24日	中国新聞	
(2)地域課題解決に挑戦	平成28年7月30日	毎日新聞	
(3)歴史文化の魅力発信強化	平成28年12月29日	山陰中央新報	
(4)津和野～築城約700年の山城	11月・12月号	ヤナセライフ・プレジール	

定性的・定量的評価(自由記述) ※定量的評価は可能な範囲で

重点地区における歴史まちづくりに関する取り組みの成果として上記を含め新聞報道で10件以上、雑誌等において20件以上、テレビについては多数回(カウント不能)にわたり紹介された。今後事業の進展による成果をさらにPRしていくこととしている。

進捗状況 ※計画年次との対応	実施・検討にあたっての課題と対応方針(自由記述)
<input type="checkbox"/> 計画の進捗に影響あり <input checked="" type="checkbox"/> 計画の進捗に影響なし	対象事業とは直接関係はないものの、日本遺産や文化財の活用等により、観光客の増加やこれまでに掲載されなかった雑誌などにも紹介されるようになった。空き家再生事業など事業の完了した案件については、イベントなどを実施するなど積極的にPRを行っていく必要がある。

状況を示す写真や資料等



(1)中国新聞 5/24



(2)7/30 毎日新聞



(3)山陰中央新報 12/29



(4)ヤナセライフ・プレジール11月・12月号